

## ■事業報告

## バーミングハム公立図書館からの贈り物 日米親善人形『ミス岩手』の里帰り

平成27年12月23日(水)～平成28年3月6日(日)

岩手県立博物館では、米国アラバマ州、バーミングハム公立図書館、株式会社吉徳の御支援により、『ミス岩手』を公開しました。

昭和2年春、日米関係の悪化を懸念した米国宣教師のシドニー・L・ギューリック博士をはじめとする両国の友好・親善を願う人々の尽力で、米国から1万2千体をこえる『青い目の人形』が日本に贈り届けられました。その年の秋、渋沢栄一氏が中心となり、愛くるしい58体の大型市松人形が、わが国から答礼人形として米国に贈られました。

ミス岩手もその一つで、バーミングハム公立図書館に迎え入れられ、大切に保管されてきましたが、経年劣化が進んだため、株式会社吉徳の工房で修理することになり、平成27年8月に日本に運び込まれました。修理後、米国に戻るまでの間、岩手県立博物館での公開が許可さ

れ、88年ぶりに、里帰りが実現しました。

ミス岩手の公開では、岩手県陸前高田市立気仙小学校所蔵(陸前高田市立博物館寄託)、『青い目の人形』を並べて展示しました。米国から贈られた青い目の人形は戦時中、軍の命令で焼却処分される運命にありましたが、気仙小学校の人形は、女性教師の機転で難を逃れることができました。東北地方太平洋沖地震の後襲来した大津波によって流出し、一時行方不明になりましたが、その後無事発見され、岩手県立博物館で安定化处理が施されました。戦争と東日本大震災という、2度の危機を乗り越えた人形です。今回の展示を通し、それぞれ見知らぬ国で友情の絆を深めてきた2つの人形が、歴史的対面を果たすという、



『ミス岩手』と『青い目の人形』の対面

貴重な機会を設定することができました。この状況はマスメディアを通じ広く公表され、多くの方々の共感を呼びました。対面を終えた2体の人形は再び、それぞれが担った役目を果たすため、新たな旅に出ました。

(首席専門学芸員 赤沼英男)

## ■活動レポート

## 岩手県立平舘高等学校との連携プロジェクト

体験学習室ハンズオン資料ドレスの制作

博物館では学校教育との連携を図る新たな取り組みとして、県立平舘高等学校家政科学科(八幡平市/岩渕健一校長、加藤幸美教諭指導)との共同プロジェク

トを立ち上げ、1年を通じて活動を続けてきました。

当館は、明治中頃に岩手県令(現在の知事)の職を務めた石井省一郎氏の妻・

あつこ 應子氏が鹿鳴館で着用したとの言い伝えが残る2種類のドレスを所蔵しています。

プロジェクトでは、ファッションデザイナーのひろみ二宮柊子・経沢

ひろみ 洋美両先生をアドバイザーに迎え、その明治時代のドレスをモデルとするハンズオン資料の制作にあたりました。

作業は課題研究の授業の一環として行われ、同校被服班に在籍する3年生9名の皆さんが取り組みました。

そして、平成28年2月、完成披露・引渡式の日を無事に迎えることができました。成果品は、2月下旬から当館体験学習室「身につけるコーナー」で活用しています。ぜひ、高校生が手掛けた作品に会いに、博物館へお越しください。

(学芸第三課 川向富貴子)



ドレスを作成した平舘高校被服班



ハンズオン資料ドレス